

K01

学会で発表・討論・交流を、双方向でダイナミックなものにするためのトライアル
ーラウンドテーブルセッション参加者の学びとは？ー

○松岡奈保子、中村譲治、岩井梢
(NPO 法人ウェルビーイング)

1. 目的

ラウンドテーブルセッション (RT) は、聴衆が演者の話を一方的に聞くのではなく、両者が同じテーブルにつき、深いディスカッションができる発表形式であると言われてい
る。そこでは、参加者が主体的に議論に参加し、言葉だけでなく体や心を使って体験したり、相互に刺激しあい学びあうグループによる学びが生まれると言われてい
る。そこで、本発表では昨年第 13 回日本健康教育学会で実施した RT 参加者の自記式質問紙で {参加する前は} {終わってみると} {RT で学んだこと} の 3 項目に対する回答に使われている言葉に着目して分析し、RT の場で起こる学びについて検証したので報告する。

2. 対象と方法

第 13 回健康教育学会で 5 テーマで RT を実施した。参加者数 (自記式質問紙提出数) は 52 名である。(発表者、参加者ともに同じ自記式質問を実施)

各RT別の発表/討論キーワードは、

A; 中学生の問題行動/予防/心理教育的プログラム、8名、

B; 運動/食習慣/ライフスタイル変更プログラム、18名、

C; Fitness Club Trial/Randomized Controlled Trial、6名、

D; 子どもから家族/食情報発信/食に関する学習、14名、

・E; 禁煙指導から嫌煙教育/青少年/教育方法、6名。

分析した質問項目は以下の 3 項目で記述式で記載されたものである。

1. RTに参加する前は

2. RTを終わってみると

3. RTで学んだことは

この記述された文章中で

1. 感情、気持ちを表している言葉。

2. 様々、いろいろなど視野が広がったと評価できる言葉。

3 時間に関する言葉

に着目して参加者の体験がどのように進み学習が深まったかを分析した。

3. 結果

1. RTに参加する前はという質問では
<マイナスの気持ちの表現として>

不安・ドキドキ・心配・眠れなかった緊張

<プラスの気持ちの表現として>

期待・ワクワク・面白い・楽しみ

<分からない気持ちの表現として>

予想できなかった・どんなことをするのだろう・見当がつかない

の表現がみられた。一番多く使われていた言葉は『不安』という言葉であり 10 名の参加者が使っていた。

2. RT を終わってみるという質問では
<視野の広がりを表す表現として>

いろいろ・様々・たくさん・一方的でない・(内容が) 深まった・(意見) 交換

などの言葉をつかって視野が広がり、議論が深まった様子を表現していた。一番多く使われていた言葉は『いろいろ』という言葉であり5名の参加者が使っていた
<時間を表現する言葉をして>

時間が短く感じられた・時間が必要・時間が足りなかった・もう少し話がききたかった・あつという間だった・気分がのったところで終わってしまって残念

などの記述がみられ、参加者はセッションの時間がたりなかったと感じていることが記載されていた。一番多かったのは時間が足りなかったという記載で3名が記載していた。
<学んだことを表現する言葉をして>

学んだ・勉強した・新しい示唆をえた・わかった・気づいた

などの記載がみられ、知識伝達でなく自発的な学びが生まれたことが表現されていた。

3. RT で学んだことはの質問では

- ・ RT という形式に対して学んだこと
- ・ ディスカッションした内容について学んだこと
- ・ RT のマネジメントの重要性について記載があった。

この RT についての学びの中でここでは新しく

身近・話しあう・どんどん・拮抗
偏り・大切

などの言葉が使われていた。これらの表現で RT 参加者がお互いを身近に感じ、ディスカッションの重要性を認めていることが示唆された

1. RT に参加した者は発表者、セッション参加者どちらにも感情、気持ちの昂揚、変化が認められた

2. RT はセッションをする場として活用され参加者に視野の広がりや深まりが認められた

3. RT は参加者が時間が短く感じられる、時間が足りなかった等々の感想をもつものが多かった

4. 考察

RT は一方通行の知識伝達型でなく参加者全員が双方ともに体験学習し、学びが深まる場として活用できる可能性が認められた。

5. 結論

RT は学会で発表・討論・交流を、双方向でダイナミックなものにするために効果的であることが示唆された

(連絡先) 松岡奈保子

〒811-0041 福岡市中央区大名 1-15-24

NPO 法人ウェルビーイング

TEL:092-771-5712 FAX:092-741-8037

E-mail::rh8n-mtok@asahi-net.or.jp